

□會議事項

指示事項

△統計事務刷新改善△統計調査員の指導
訓練△統計協會に關する件
注意事項

△報告期限の勵行△各表調査上について
△統計協會に對する寄稿、質疑、廣告の
募集、印刷物及雜誌代拂込等に關する件
△昭和十年度統計協會負擔金に關する件
質疑

質疑は別項統計質疑の欄に記載す

□出席者氏名

- 瀧千仞(南中郷) 佐藤進(松岡) 豊
- 田武門(高岡) 沼田至之(松原) 滑
- 川寅雄(磯原) 鈴木竹雄(華川) 二
- 田勘兵衛(大津) 本瀧知明(平瀧)
- 水野廉平(關本) 中郡常雄(關南)

結城統計事務所研究會

結城郡町村長會第四支部では一月十二日水海道町役場に於て本年最初の統計事務所研究會を開催、縣統計課より郡擔任の小泉屬が臨席、午前十時水海道

注意事項

- 一、報告期限の勵行に關する件
- 二、統計報告表製表上に關する件
- 三、耕地面積
- 四、食用農産物
- 五、家畜調査
- 六、園圃農産物蔬菜及花卉の三
- 七、蠶網
- 八、藁製品
- 九、木(竹)製品
- 十、工場

出席者

- (縣廳)小泉屬(水海道)小島久一郎
- (大生)廣瀬貞治 (三妻)船張二平
- (五箇)星野武 (豊岡)中島良平(菅原)大根惣次郎

指示事項

△統計事務刷新改善△統計調査員の指導
訓練△縣統計協會に關する件

◇統計調査員會狀況報告

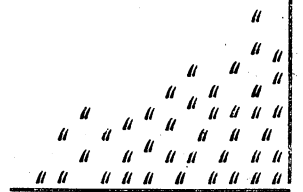
稻敷郡奥野村統計調査員會
 一、開催月日 昭和十年一月十日
 二、出席人員 六人(定員八人)
 三、協議事項 一、作付反別調査原簿の加除
 二、乙號收穫高調査決定
 稻敷郡柴崎村統計調査員會
 一、開催月日 昭和十年一月二十四日
 二、出席人員 十一人(定員十一人)
 三、協議事項
 1、一月二月中報告すべき各表の調査方法の注意提出期日の協定
 2、現住人口調査期日の決定及調査方法の注意(柴崎村限りの分)

昭和九年の米作

旱害・颱風・冷害

厭ふべき厄年

收穫高百九十二萬五千六十石



昭和九年は本縣の米作にとりてまことに厭ふべき厄年であつた、十年一月十八日統計課の發表するところによると、作付反別は十二萬二千六百五十七町七段で前年の作付反別に比し二千三十四町三段(〇割一分七厘)を増してゐるが前五ヶ年平均作付反別に比べると四千二百四十六町九段(〇割三分三厘)を減少した、而してその收穫高は百九十二萬五千六十石で前年に比べて十四萬四千八百九十九石(〇割六分八厘)、前五ヶ年平均收穫高に比し七萬二千四百二十二石(〇割三分六厘)の減少である、なぜこんなに收穫がへつたかといふに、九年の稲作は播種當時は天候順調にして晴天高温多く苗の生育も極めて良好であつたが移植の適期にいたるも依然晴天続きで降雨少く用水に不足を告げ局部的には旱害を蒙つたものや植付不能に陥つたものさへあつた、處が七月にはいと間もなく

天候一變して俄に冷氣となり低温寡照のために著るしく發育を阻害され分蘗伸長共に少く、水稻の成育憂慮すべきものがあつた、この厭ふべき天候打續くこと約一ヶ月、八月月上旬になつて稍々回復し幾分作柄を見直したかと思ふと九月二十一日の颱風に遭うて甚大な被害があり、更にその後の天候は一層不順にして異常なる低温持續し、結實充分ならず、殊に山間部地方にあつては冷害甚だしいといふ米作にとつては最も悲觀すべき天候つゞきて水稻は前年に比し二十二萬六千三百三十石(一割二分一厘)の減收を示した、陸稻は幸ひ前年の如き大旱害を蒙ることもなく生育や順調に經過し前年に比し八萬五千六百四十一石(四割二分)の増收を示したが水稻が前記の如き不作のため結局水陸稻の計においては上記十四萬四百八十九石の減收を示すにいたつた。郡市別に示せば左の如し

